

博士論文要旨

論文題名：中国の「素質教育」における「個性」概念の検討—「因材施教」と『窓ぎわのトットちゃん』

立命館大学大学院文学研究科
人文学専攻博士課程後期課程

ロ セイヨウ

LU Jingyang

本研究は、1978年の改革開放以降の中国における基礎教育の根幹を成す教育理念として、特に21世紀初頭以降強く打ち出されている「素質教育」の中で、「個性」の尊重とその育成を目指す「個性教育」がどのように位置づけられており、また今後どのように展開されていくべきなのかについて、三つの視点から複眼的・多角的に究明することを試みた教育人間学的考察である。

本論は三部構成を取る。第一部では、春秋・戦国時代から1970年代までの中国の教育思想における「個性」概念と「個性教育」の特徴の歴史的変遷に関する検証を行う。第二部では、改革開放以降の中国における「素質教育」の特色と「個性」および「個性教育」との位相について、「徳・知・体・美・労働」の「全面発達」や「因材施教」の概念を手がかりにして分析を行う。第三部では、21世紀初頭以降中国でロングセラーを記録した日本児童文学作品・黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』の受容の様相を通して看取される、現代中国の子ども・親・教師・一般社会の人々の「個性」や「個性教育」に対する期待や願望に関する考察を行い、また「中国のトモエ学園」と称される四川省・範家小学校の教育実践を事例紹介し、「全面発達」と「個性の発達」の結合もしくは融合の可能性を探る。

そして最後に、第三部で確認された、国民の願いとしての、子ども一人ひとりの多様な「個性」を尊重し、その自由で健全な発達を支援し育成していこうとする「個性教育」が、第二部で議論された、国家指導者や教育家の考える、国家および社会全体の発展や社会主義現代化の完成に寄与する人材の育成を目指す「素質教育」と、齟齬をきたすことなく果たして両立しうるのか、また両立させるためにはどうすればよいのか、という根本的な問いに対して筆者なりの応答を試みて本論文を締めくくる。